

豊明市行政評価制度 「事務事業」評価票

1 ■ 事務事業の概要

1 - 1 事務事業の名称	麻しん・風しんワクチン接種率向上事業(主要事業)									
1 - 2 担当	部	健康福祉部	課 又は施設	医療健康課	係	健康係	評価票作成者	母子保健担当係長 岡田恵子		
1 - 3 総合計画における施策の体系	節	保健福祉 「健康で安心して暮らせるふれあい・支えあいのまちづくり」				基本施策	感染症対策		コード	2—1—3
						単位施策(中)	予防接種等の対策		コード	2—1—3—1
	項	健康				単位施策(小)	安全な予防接種の実施		コード	2—1—3—1—3
1 - 4 事務事業の目的の精査	対象と対象の数	1 期：生後12～24月未満児 2 期：5 歳以上7歳未満の児で就学前の1 年間にある者			意図（対象を事務事業によってどのような状態にするのか）		接種率が向上することで免疫水準があがり麻しん・風しんの罹患者が減る。			
1 - 5 事務事業の内容	対象年齢の児は市内指定医療機関にてMRワクチンを 1 期から 4 期にそれぞれ1回ずつ個別接種する。（平成 2 0 年度から 5 年間の期間限定で中学 1 年生（第 3 期）及び高校 3 年生（第 4 期）相当年齢に接種が義務付けられたためその対応も追加する。）									

2 ■ 事務事業実施の状況

2 - 1 事務事業の実施における基本認識	事務事業実施にあたって心がけた改善の取組み		社会状況等の事務事業がおかれる環境把握		市民ニーズの認識					
	平成18年度	麻しん風しん（MR）混合ワクチンを１期と２期に接種するという方法に変更されたことから、対象者への個人通知等周知を徹底した。	日本は先進国の中では麻しんの接種率は低いという現状にあるが、国の検討委員会の提言では１歳児の接種率を９５％達成を目指すとする。		１期の接種率は９９．６％と高い接種率であるにもかかわらず、２期の接種率は７３．８％と低迷していることから、児の年齢が上がるにつれて親の認識も下がる傾向が伺える。					
	平成19年度	最新情報の収集と医師会との調整及び市民への情報の周知に努めた。	昨年の１０代及び２０代を中心とした麻しんの大流行を受けて、麻しんの排除計画が強化された。		法改正に伴う接種方法の変更などの正しい情報提供が求められる。					
	平成20年度	第3・4期が追加されたことで、対象者への啓発・接種勧奨に努めた。	１０代及び２０代を中心とした麻しんの大流行を受けて、麻しんの排除計画が実施されることとなった。		接種の必要性は感じているが、時間を割いての接種へつながっていない。接種行動につながる正しい情報提供が求められる。					
	平成21年度	〃	〃		〃					
	平成22年度	第1期から第4期までそれぞれの接種率をさらに伸ばし、子どもたちが、麻しん・風しんにかかることを未然に防ぐことが重要である。								
	平成23年度									
	平成24年度									
	平成25年度									
	平成26年度									
	平成27年度									
2 - 2 総合計画における単位施策成果指標	事務事業成果指標名		前期目標値(単位%)	後期目標値(%)	指標の説明					
	MRワクチン（麻しん・風しん）接種率		90.0	95.0	MRワクチンに変更されても１期、２期ともに95%の接種率 【資料】とよあけの保健					
2 - 3 成果指標に係る活動実績とコストの推移（アウトプット分析）	平成１８年度	平成１９年度	平成２０年度	平成２１年度	平成２２年度	平成２３年度	平成２４年度	平成２５年度	平成２６年度	平成２７年度
	活動実績a（単位）	1,212（人）	1,260（人）	2,116（人）	2,116（人）	2,010（人）				
	直接事業費b（千円）	15,668	15,626	24,330	25,721	22,585				
	人件費c（千円）	59	109	167	358	155				
	合計コストd（b＋c）（千円）	15,727	15,735	24,497	26,079	22,740				
	単位コストd／a（千円）	接種者当たり 12	接種者当たり 12	接種者当たり 12	接種者当たり 12	接種者当たり 11	当たり	当たり	当たり	当たり

アウトプット実績（活動数値）の補足説明 ➡ 【直接事業費】委託料22,389,150円 役務費等195,430円 合計22,584,580円
【人件費】50時間 3,100円×50時間=155,000円
対象者 2,540人 接種率79.1%

2 - 4 成果指標に 対応する実績と達 成度の推移		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
	指標対応実 績（％）	86.0	89.4	78.6	77.0	79.1					
	後期目標値 に対する達 成度（％）	90.5	94.1	82.7	81.1	83.3					

3 ■ 事務事業の自己評価結果

3 - 1 評価結果 (アウトカム自己分 担)	単年度 担当課評価	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
		A	A	A	A	A					

- 4段階評価結果

A：上位目的である施策に貢献しているので継続する
B：事務事業の実施手法や環境（予算的・人的）に改善が必要
C：縮小等、事務事業としての見直しが必要
D：事務事業の廃止が相当
- 判断の基準

必要性（必要な事務事業であるか）
公共性（公が実施する意味があるか）
妥当性（ニーズに対して投入が適正か）
効率性（結果に至る活動に無駄はないか）
有効性（活動の結果が上位の目的に貢献しているか）
市民満足度（事務事業が対象にしている市民を満足させているか）

3 - 2 評価の内容		今後の環境変化を踏まえた課題認識	次年度に向けて改善する取組み	事務事業の担当課としての単年度の取り組みの自己評価
	平成18年度	1期・2期とも接種率の向上を目指し、予防接種の有効性に対する親の認識が低下しないように働きかける。	2期の対象者については、罹患者を除く等の見直しもしながら接種率の向上を図る。	対象者への情報提供の徹底により、市民の混乱はほとんどなかったと思われる。
	平成19年度	最新情報の収集と市民への情報の周知の徹底を図る。	麻しん風しん(MR)の中学1年生と高校3年生を対象にした5年間の時限措置について医師会との調整及び市民へのPR等の対応に努めた。	情報の変更など戸惑う部分もあったが医師会との調整や市民へのPR等タイムリーに対応した。
	平成20年度	追加対象者への個別通知や未接種者への追加通知を行い受診率の向上に努めているが、より効果的な啓発活動の検討。	中学1年生と高校3年生への接種勧奨や保護者・市民へのPR等の強化。	対象者への個別通知による接種勧奨にもかかわらず、60％（12月末）と低く、未接種者への再度の個別通知を行い、受診率の向上を図った。
	平成21年度	〃	〃	〃
	平成22年度	とりわけ第3期・第4期の接種率がここ数年横ばい状態である。就学期を対象とした年齢層ということもあり、学校を通じて勧奨を積極的に行う。		
	平成23年度			
	平成24年度			
	平成25年度			
	平成26年度			
	平成27年度			

4 ■ 事務事業の総合評価結果

4 - 1 総合評価の 結果		結果	審査会による改善方向の指示
	平成18年度	A	継続して事業を進めること。
	平成19年度	A	継続して事業を進めること。
	平成20年度	A	継続して事業を進めること。
	平成21年度	A	継続して事業を進めること。
	平成22年度	A	継続して事業を進めること。
	平成23年度		
	平成24年度		
	平成25年度		
	平成26年度		
	平成27年度		